

「こわいみずからじぶんをまもる」

滋賀県 東近江市立能登川南小学校 1年 しらね 白根 ともひと 智仁

テレビでどしゃくずれのニュースをみました。すなのやまにみずをながしたみたい、やまがぐしゃとくずれていました。「なんでこんなことになるの？」とおかあさんにきいてみました。「あめがたくさんふって、じめんも、きのねっこも、もうみずをささえきれないというときに、みずのながれるちからのほうがつよくなって、やまがくずれてしまうのよ。にほんのやまは、しゃめんがきゅうで、みずをささえきれないところがおおいのよ。」とおしえてもらいました。

みずがみちにあふれると、どこまでがみちなのかわからなくなります。まえに、おとこのこがひなんじょにいくとちゅうにかわにおちてしんでしまったことがあると、ききました。ふだんかよいなれたみちでも、みずがあるだけで、どこになにがあるのかわからなくなってしまいます。みずってほんとうにこわいなあとおもいました。

あめがいつぺんにふらずに、ちよつとずつふってくれたらいいのになあ。もし、ぼくのいえのまわりが、みずでいっぱいになったらどうしよう。ぼくのかよっていたほいくえんのうらにあつた、いのこやまがくずれたらどうしよう。ぼくは、すごくこわくなりました。みずでみちがわからなくなるまえに、にげたいなあ。みずがいっぱいにならないように、じょうずにながれてほしいなあ。たくさんあめがふったり、つづいたりするときは、さきにして、どうしたらいいか、かんがえておきたいなあ。かぞくといっしょにいたいなあ。ぼくは、おおあめやどしゃくずれで、いえがこわれたりひとがしんだりしないよう、みんながずっとげんきでいられるようになってほしいです。ぼくも、もしものときのことを、おしえてもらって、しっかりおぼえておこうとおもいます。